

ユニオン早強グラウト

G10・G20・G30

【施工要領書】

二瀬窯業株式会社

1. 下地処理

- ・コンクリート表面にレイトンス、汚れ、油分などがあれば全て取り除き、水洗い・清掃等を行って下さい。
- ・下地コンクリート面は十分な散水を行い、散水後は余分な水分を除去して下さい。

2. 型枠の確認

- ・型枠は、打設耐力に耐えられる構造とし、型枠の隙間からモルタルが漏れないように、シーンを施して下さい。

3. 練混ぜ

- ・練混ぜ水量は所定の範囲内（4.2～4.8ℓ/袋）で、Jロートの測定結果が 8 ± 2 秒内になるように調整して下さい。
- ・練り上がり温度が所定の適用温度範囲内になるように、練混ぜ水・材料の温度管理を行って下さい。

タイプ	適応温度範囲
G10	5℃～15℃
G20	15℃～25℃
G30	25℃～35℃

- ・1回の練混ぜ量は、早強性を有しているため、10分以内を目安に使い切る量として下さい。
- ・練混ぜは機械練りで行い、練混ぜ時間を1分30秒～2分間とし、3分以上練混ぜないで下さい。
- ・アルミ製のミキサーの羽根や練混ぜ容器は、硬化後の異常膨張の恐れがあるため、使用しないで下さい。
- ・練混ぜに使用するハンドミキサーは、回転数800rpm以上の高速タイプを使用して下さい。

4. 打設・充填

- ・流し込みは片側から連続打設して、反対側の排出口からモルタルがあふれ出るまで行うようにして下さい。
- ・打設終了後、表面の仕上げはモルタルが締まってきたのを見計らい、コテ押さえをして仕上げて下さい。
- ・モルタルポンプによる施工はしないで下さい。ホース内で固まる恐れがあります。

5. 養生

- ・養生期間は、打設終了後3時間以上を目安にして下さい。
- ・モルタルが完全に硬化するまでは、衝撃・振動を与えないようにして下さい。
- ・通風や直射日光は避け、必要に応じて屋内では開口部の封鎖、屋外ではシート掛け又は養生マット等で湿潤状態を保ち、急激な乾燥を防止して下さい。
- ・施工後、降雨・降雪の恐れがある時はシート掛け等の養生を行って下さい。